

京極高次夫人

常高院

小浜藩主・京極高次の妻であり、戦国時代を生き延びた浅井三姉妹の一人としても知られる常高院（お初）。

お初は、永禄十一年（一五六八）、近江小谷城主浅井長政と、その妻で織田信長の妹・お市の方の次女として生まれました。

姉に豊臣秀吉の側室の淀殿、妹に2代将軍となる徳川秀忠の妻のお江がおり、お初自身は、天正十五年（一五八七）に大津宰相の京極高次の元へ嫁がれました。

その後、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いにおいて夫高次と共に徳川方に味方して戦い、その功績を認められて高次は若狭一国を与えられ、小浜藩主となりました。

慶長十四年（一六〇九）に高次が亡くなってからは、お初は出家し、常高院栄昌尼じょうこういんえいしょうにを名乗ります。

この頃から甥・豊臣秀頼と徳川家康（妹・江の舅）の対立が露呈するようになり、常高院は仲介に奔走するようになります。

慶長十九年（一六一四）の大阪冬の陣では、徳川家の使者として淀殿を説得し和平を成立させましたが、翌二十年の大阪夏の陣では、豊臣家から依頼されて家康に和議を申し出ましたが成りませんでした。



常高寺内
常高院栄昌尼 石碑

寛永七年（一六三〇）、槐堂和尚かいどうおしょうを招いて後瀬山山麓に常高寺を建立し、寛永十年（一六三三）八月二十七日に六十四歳で逝去されました。常高寺には常高院の墓所のほか、肖像画も残されています。

常高院は「もし、将来国替えがあっても、常高寺だけはこの若狭の地に留めおいて下さい」と遺言に残しており、その遺言どおり、常高院の石碑は今でも後瀬山の麓に佇み、美しい若狭小浜のまちを見守っています。